

益田の医療を守る市民の会記念事業 アンケート

集計：50人

性別

男性：18人 女性：29人 無回答：3人

年代

10代：0人 20代：6人 30代：5人 40代：10人 50代：10人
60代以上：16人 無回答：3人

講演の感想をご自由にお書きください

- ・具体例が出るお話を想像していたら大雑把な話だったが話したいことはよくわかりました。
- ・「間を生きる」の大切さ。つなぐ、橋渡しの大切さ。共に考え共に作ることができるといいと思う。私にできることは何かと考えてみます。
- ・医療は作るもの、市民としての橋渡しが必要。
- ・間を生きる、橋渡し、大事にしていきたい。
- ・医療は医師だけでなく、市民と相互に作り上げていくものだとすることを学べてよかった。
- ・わかりやすく聞きやすい講演でした。
- ・話を聞いて益田市をもっと盛り上げていければいいなと思いました。
- ・地域が元気になるためには、やはり人が元気でないとダメだと思うので、これからの医療をしっかり考えていきたいです。
- ・松ヶ丘病院の素晴らしい取り組みを聞いて本当に心強い、頼もしいと思いました。
- ・楽しくわかりやすいお話で、理解もまずまずできたように思います。自分で何か関わることがあればいいと思います。みんなで協力していけることを願います。
- ・いつも素敵な話を聞かせてもらえるので坪内院長の話は楽しみでした。人と人をつなげることは大切だと思いました。医療を通して地域と深くかかわっていることを知り感心しました。
- ・松ヶ丘病院の皆さんが地域とつながってとても楽しそうに夢を持ちながら仕事しておられるのが印象的でした。こんな風に人と人が繋がっていけるんだ…と目からうろこでした。自分もそのどこかに関わればいいなと思いました。
- ・坪内先生のお話、「間」を生きる＝橋渡し、みんなに落とし込める仕組みづくりをデザインすること、本当良いお話でした。両部長さんの思い溢れるお話、益田の大切な資源＝松ヶ丘だと感じました。未来と一緒に見ていきたいし、協力し合いたいと思いました。
- ・松ヶ丘病院の名前は聞いたことはありますが、病院の中で、また病院というものがどのような動きをしておられるのか知りませんでした。今日はそのことが良くわかりました。
- ・肩の凝らない話で、市民、諸団体、グループとの交流、連携の大切さが理解できた。ホースセラピーいいなと思い描きながら聞きました。自然や生き物との交流、肌で触れ合うことが心の再生には必要だと思うから。
- ・人と人との関わり、生きていく上でのヒントになりました。
- ・とてもお話が面白かった。

- ・現状と課題とよく使っていますが“未来”と変えるだけ考えも良い方向に進んでいくと感じました。
- ・医療は与えるものでなくみんなで支えていくものということですね。松ヶ丘病院が色々なことに積極的に取り組まれていることが良くわかりました。
- ・地域とは互惠性の関係で医療を進め深めるし、地域に役立つものであること、今後に描かれていく感を受け取った。松ヶ丘病院、周辺関係施設の将来像は素晴らしいことです。ぜひその成功を祈ってやみません。
- ・地域への信頼と連携は非常に大切だと思った。
- ・松ヶ丘病院が地域との関係、相互作用を大切にしておられることが良く分かった。自分の受けた医療、介護を提供すべきというお話にも共感した。「記憶が美しく変わっていく」というお話をもう少し詳しく聞きたかった。馬事公苑の運営に期待します。
- ・松ヶ丘病院の活動や未来を聞き、とても学びになりました。、間を生きること、橋を渡すことの大切さがわかりました。
- ・間を生きる＝橋渡しの話は多くの写真で様々な角度から提起されている。奥の深さを感じた。日常、普段の中にあるのだなと感じた。
- ・どちらの講演もわかりやすかったです。記憶が美しく変わっていくという言葉が印象的でした。デザインするとき当事者が入ることが大切なのではと榎本部長の熱意が伝わりました。
- ・社会福祉法人に勤めていますが、法人運営のヒントになる話がたくさんありました。
- ・面白く話が分かりやすく益田を取り巻く医療の現状が理解できた。
- ・絵もあり飽きずに講演を聞くことが出来た。
- ・坪内先生の「間を生きる＝橋渡し」そして共感論という情緒的交流の考え方は日々の精神科医療、作業療法に生かしていきたいと感じました。非常に感銘を受けました。
- ・興味深いお話でした。
- ・「精神科」というイメージに暗さを感じる人も少なくないと思いますが、明るい内容で現状が伝わったと思います。
- ・大変参考になりました。現状が理解でき、今後の展開が判断され良かったです。
- ・飽くことのない話で特に写真も挿入され楽しく、わかりやすく受講できた。最後のまとめ（講演の目的）もありユニークな講演であった。
- ・間、仕組みを通して医療と社会についていろいろ考えることが出来た。

医療について、関心があることをご自由にお書きください

- ・自分の考えを伝えることが出来ない障がい者の精神的なケアの仕方。
- ・総合病院の待ち時間含め受診時間が短くなると嬉しい。仕事を持っていて義両親を連れていくが、半日仕事を月に2,3度休むのは大変。
- ・最近少子高齢化が進み、元気に働ける人が少なくなっています。そんな世の中ではやはり医療が大切になってきていると思います。
- ・間を生きる＝橋渡し、共に生きるということ。
- ・コンビニ受診が良くないかもですが、子どもの調子が悪くなるのは夕方だったりして不安が大きくなるので、いい対応方法があるといいと思います。
- ・地域で生活できる仕組みづくり。赤ちゃんからお年寄りまでの仕組み。

- ・訪問看護をしておられるようで、大変いいと思います。
- ・当地での精神保健ボラの今後の在り方。
- ・老後を考えること。
- ・看護師養成専門の学院は県内でもあちこちにあり、毎年 100 人を超える看護師が誕生しているのに、現場では看護師不足が一向に解消されません。離職者がそれほど多いわけです。なぜか、その根本に迫る背策、改善がなされなくてはいつまでもイタチごっこです。一つには医療制度（法）の見直し（例ヨーロッパ参考）、ILO（労働法）比準の問題など一地域だけでは解決の方向はつかめません。地域から声を上げていく必要を感じます。
- ・認知症患者は「かくれ」がかなりいるのではないだろうか。家の人はあまりオープンにしたがらない。
- ・医師の配置と報酬をコントロールしないと田舎の医療は崩壊します。
- ・益田市内には松ヶ丘病院以外の医療機関に通院しておられる方々がたくさんおられます。その方々の訪問看護がスムーズに受けられるようになるといいと思います。
- ・患者さんを地域で支えるための訪問看護。
- ・チーム医療、多職種による交流。高次脳機能。訪問リハビリ。
- ・歯科や介護も含めた課題の共有が必要。

益田の医療を守る市民の会の活動への要望をご自由にお書きください。

- ・こちらへ言うのもおかしいかもしれないが、障がい者 2 級の人の医療費自己負担額の軽減（1 級の人や生活保護受給者は免除、収入の低い人のみ）
- ・医療従事者だけでなく、他の職の方への理解も必要なんだと思いました。
- ・一緒に会員を増やしていくため、取り組みが出来るといいと思います。
- ・総会等講演ですが土曜日の午後は時間的に都合がつかなくて参加できない方も多く居ると思います。平日の夕方か、日曜日にしてもらえると参加しやすいと思います。
- ・開かれた介護を在宅で共生できる仕組みを痛感。家で看取る。
- ・全ての子供たちに患者さんに優しい人になってほしい。
- ・他地域での活動を知る（情報交換）こと、先進的な活動状況を知り、市民にも広く知らすことも考える、そのためのシンポジウムもいいですね。
- ・元気で頑張ってもらいたい。
- ・敬意を表します。
- ・医療関係者の講演を計画してほしい。
- ・他業種との話し合いが出来るような研修をしてほしい。
- ・さまざまな講演会が開催されることを希望します。